

木育キャンプ ～めざせ森林マイスター～

〔主催〕国立諫早青少年自然の家

（企画・運営：佐賀・長崎地域ぐるみで「体験の風をおこそう運動」推進実行委員会）

〔期日〕令和5年1月21日(土)～22日(日)

〔活動場所〕国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕小学校4～6年生 21名(男12名 女9名)

〔講師〕長崎県森林ボランティア支援センター フォレストマスター 奥村 公子、蓑田 清隆

〔担当職員〕寺中 拓也、小野 栄策

1)趣旨

次代を担う子供たちに対し、木についての様々な体験を通して理解を深め、自然に親しむ心情や社会性を育てるとともに、森林や環境問題に対する正しい理解の基礎を育み、持続可能な社会づくりの担い手育成の一助とします。

2)目標

- ① 五感を使って自然を感じ、体験する活動を通して、自然への親しみを感じる。
- ② 各活動を踏まえて、森林を植える、育てる(木の伐倒や玉切り)、使う(端材クラフト)の森林サイクルを体験的に理解し、森林と生活の関わりを考える。

3)プログラム

1日目	2日目
9:30 受付	6:50 ラジオ体操
10:00 開会式	7:10 朝食(レストラン)
10:30 ネイチャーゲーム	8:00 部屋清掃・荷物整理
12:00 昼食(レストラン)	9:00 きこり体験 【写真④、⑤】
13:00 ネイチャーゲーム 【写真①】	11:00 火おこし体験
14:30 森林ウォークラリー 【写真②】	12:30 昼食(弁当)
17:00 夕食(レストラン)	13:00 ふりかえり 【写真⑥】
18:00 ベッドメイキング	14:15 閉会式
19:00 木エクラフト 【写真③】	
20:30 入浴	
21:00 ふりかえり	
22:00 就寝	

4)事業展開

① ネイチャーゲーム



開会式後、参加者がお互いに知り合いつつ、施設周辺の自然で楽しく遊ぶため、奥村講師にネイチャーゲームを実施いただきました。落ち葉でじゃんけんをしたり、ピンクでハートの自然物を探したり、子供たちは夢中になって取り組んでいました。

③ 木エクラフト



諫早市内にあるタカシマホールディングス(株)様に提供いただいた端材を用いて、自由にクラフト活動を実施しました。施設周辺にある木の実等も活用し、一人一人個性溢れる作品が出来上がりました。

⑤ きこり体験②



のこぎりを使って、自分の好きなサイズに木を切る体験をしました。太めの木にチャレンジしたり、皮をむいてツルツルにしたり、頑張りとお土産を作っていました。

② 森林ウォークラリー



コマ図を見て正しい道を見つけ、ゴール地点まで戻ってくるウォークラリー(新コースバージョン)を実施しました。施設からほど近い「九電みらいの森」という植樹したばかりの場所をコース内に配置し、観察することで自然に目を向ける機会となりました。

④ きこり体験①



蓑田講師による伐倒の様子を見学しました。大きく育ったヒノキが倒れる音、振動は大変迫力があり、その様子を真剣なまなざしで見つめていました。また、昔と現在の林業従事者の服装や道具の違いなども、現物を見ながら楽しく学びました。

⑥ ふりかえり・終了証書授与



2日間の修了証書を渡し、今後森林マイスターの卵として、どのようなことを頑張っていくかを全員の前で発表しました。今回の学びをさらに深めることを期待しています。

5) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
90%	10%	0%	0%

② 参加者の声

- ・ ネイチャーゲームでは、自然の中にいろいろな物が隠れているんだなと思いました。
- ・ 森林ウォークラリーで、友達と地図を見てクリアを目指すことで、絆ができたと思います。
- ・ ウォークラリーで見た景色は達成感があり、普通の美しい景色とは違う嬉しさがありました。森林の空気は、普通の空気の何倍もおいしかったです。
- ・ 木工クラフトでは、自分で考え材料を選んで作ることが楽しかったです。
- ・ 木工クラフトで、家に使う木の端っこなどは大きい木がたくさんあり、それを捨てていると思うともったいないなと感じました。
- ・ きこり体験では、倒す方向や逃げる方向などをしっかり考えて木を切っていることや、家の柱になるまでにこんなに時間がかかっていることにびっくりしました。
- ・ きこり体験がとても面白かったです。そのおかげで、木のことをもっと知りたくなりました。

6) 成果と課題

① 成果

- ・ 長崎県緑化推進協会、長崎県森林ボランティア支援センターとの連携により、講師を紹介いただき、職員だけでは実施できないプログラムを実施することができた。
- ・ タカシマホールディングス(株)の協力により、クラフト活動で使用する材料(端材)を提供いただくことができた。また、クラフト活動の前に、その材料が端材であることを子供たちに説明することにより、子供たちが無駄なく材料を使用している様子が伺えた。
- ・ 安全管理を徹底し、チェーンソーで伐倒する様子を見学することで、その迫力に驚いている子供が多くいた。植樹から伐倒、加工という森林サイクルの一部を、体験を通して理解することができた。

② 課題

- ・ ネイチャーゲームや木工クラフトなど、施設の利用団体が実施できるプログラムとすべく、関係団体と調整を進めたい。
- ・ 森林ウォークラリーは、新しいコースを設定して実施した。地図の微修正や問題の設定など、修正が必要な点が見られたため、今後修正を加え利用団体に提供できるよう資料を整理したい。



目標4 質の高い教育をみんなに

五感を使って、自然と触れ合う体験を通して、自然の持つ様々な表情を楽しみ、普段気づかない発見や自然とのつながりに気づく。



目標13 気候変動に具体的な対策を

森林を守り、正しく手入れしていくために、どのような取り組みをしているか、私たちの生活の中でどのようなことができるかを考える。